

消化器検診 Newsletter

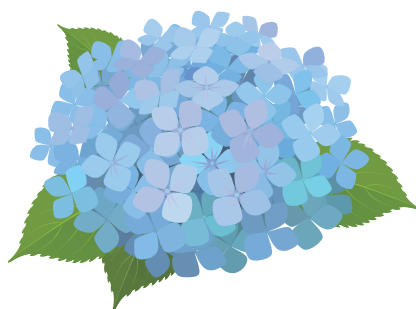
[日本消化器がん検診学会関東甲信越支部機関紙]

No.117

発行所：日本消化器がん検診学会
 関東甲信越支部
 〒183-0042 東京都府中市武蔵台2-9-2
 東京都がん検診センター
 消化器内科
 TEL / 042-321-0711
 E-mail:kantou@jsgcs-kanto.jp



日本消化器がん検診学会関東甲信越支部支部長 挨拶	2
第81回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会	
会告	3
会長挨拶	3
予定プログラム	4
ザ・ベスト・イメージング・コンテスト症例募集	7
令和4年度第22回超音波セミナーのご案内	10
胃X線検診安全基準（第2版）のご案内	11
編集後記 山口和也	12



令和4年度 挨拶



日本消化器がん検診学会 関東甲信越支部
支部長 小田 丈二

2022年4月より歴史ある日本消化器がん検診学会関東甲信越支部支部長に就任いたしました、東京都がん検診センター消化器内科小田丈二と申します。関東甲信越地方会の設立から現在に至るまで、歴代の諸先輩方が消化器がん検診の発展にご尽力されてきた、数々の輝かしい業績を鑑みますと、今更ながら支部長としての責任の重さに身が引き締まる思いです。

関東甲信越地方会は、1971年に、当時国立がんセンター集検部長であった市川平三郎先生が中心となり設立されました。50年以上も前のこととなります。全国に先駆け、放射線部会、保健衛生部会、超音波部会を設立し、各々がそれぞれの分野における精度管理向上のための研究や検診の普及に力を注ぎ、定期機関誌である現在の『消化器検診Newsletter』による情報発信など、多くの事業を手掛けました。この関東甲信越地方会は、2013年には本学会のなかに組み込まれ、全国各支部の中でも最大の会員数を誇る関東甲信越支部となりました。

内視鏡検診という新しい取り組みも始まり、ますます検診事業を活性化しようとした矢先、2020年初めにはCOVID-19感染症による未曾有の全世界的な拡大を経験することとなり、これに伴い検診事業は一時中止に追い込まれたりもしました。学術集会や研究会、勉強会なども多大な影響を受けたものの、現在はWEBを活用して再開しておりますが、実技などライブの良さを取り戻すことも今後の課題であります。

我々はこれからもより良い検診を提供すべく努力を続ける必要があります。というのも依然として我が国の消化器がんによる死亡率は高く、多くの課題が残されているからです。この関東甲信越支部は、今後もこれまで以上に日本の消化器がん検診における中心的存在として様々な取り組みや活動を通して情報を発信していく必要があります。そのためにも消化器がん検診に関わるすべての職種の皆様、医師、診療放射線技師、臨床検査技師、保健師、看護師、事務職や行政の方々とより強い連携、交流を深めていく必要があります。その上で精度の高い検診を目指すべく努力していくつもりです。会員の皆様が活動しやすい場を提供できるよう、微力ではございますが尽力致します。まだまだ若輩者で、皆様のご協力なくして支部の運営は成り立ちません。忌憚ないご意見を頂きながら、今後をご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。消化器がん検診学会関東甲信越支部のさらなる発展を祈念しながら支部長就任の挨拶とさせていただきます。

令和4年4月吉日

第81回日本消化器がん検診学会 関東甲信越支部地方会の会告

会 長：中島 寛隆（早期胃癌検診協会附属茅場町クリニック）

会 期：2022年9月4日（日）

完全 WEB 開催

第81回 日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会（WEB開催）のご案内

第81回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会

当番会長 中 島 寛 隆

早期胃癌検診協会

第81回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会の会長を拝命しました中島寛隆と申します。この度の新型コロナウイルス感染拡大に際しては、お亡くなりになられた方々に謹んで哀悼の意を捧げますとともに、罹患された方、すべての皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、日々感染症対策に尽力されている関係者の方々に敬意を表します。

本会は、消化器がん検診に関する研究発表や知識の交換および関連学会との連携の場となるとともに、消化器がん検診に関する学術の進歩と正しい検診方法の普及を図り、かつ広く社会に貢献することを目的に活動を行って参りました。「がん検診」の運用には医師、看護師、保健師、放射線技師、臨床検査技師に加え自治体や行政担当者など様々な職種の人々が連携することが重要で、関東甲信越支部では毎年1回、会員の皆様における情報交換及び交流の場としての地方会を開催しております。本年度の第81回関東甲信越支部地方会は、2022年9月4日（日）に東京で「がん検診の再出発」をテーマに開催する運びとなりました。皆様ご承知のとおり、がん検診は利益と不利益のバランスの下に成立するものでございますが、COVID-19拡大期において従来通りの方法では、検診の不利益が利益を上回る事も危惧されます。がん検診にとってコロナ禍と対峙する現状は、がん検診方法への転換期かも知れません。このような背景と社会情勢の変化を鑑み慎重に検討した結果、第81回地方会の開催形式を完全WEB開催と致しました。これまで、会員の方々が一堂に会して顔と顔を突き合わせて議論することで発展した本地方会ですが、第81回においてはWEB開催へのご理解を頂けると幸甚に存じます。

会員の皆様方へ、多数ご参加いただきますよう心よりお待ち申し上げます。実り多い有意義な会となりますよう努めて参りますので、何卒よろしくごお願い申し上げます。

WEB開催予定プログラム

シンポジウム (第1会場)

地域別に見た対策型胃内視鏡検診の現状と問題点

— 都市部と山間部における運営の工夫 —

司会 赤松 泰次 先生

司会の言葉：

対策型胃がん検診は従来胃X線検査を中心に行われてきたが、2017年に内視鏡による検診が正式に認められたことにより対策型胃内視鏡検診を導入する地域が増加しつつある。しかし、対策型胃内視鏡検診を導入するためには、受診希望者に対する内視鏡件数のcapacity、二次読影方法の確立、医師会や行政側の人的および財政的規模の問題など多くのハードルがあり、現在でも全国的に十分普及しているとは言い難い。また、都市部と地方（山間部を含む地域）では、対象人口や内視鏡検診を担う医師の数に大きな相違があり、それぞれ異なる課題が存在する。本シンポジウムでは、都市部ないし地方における対策型胃内視鏡検診の導入（立ち上げ）の工夫と現状の課題についてご発表頂き、この検診の普及の一助にしたいと考えている。

パネルディスカッション (第1会場)

公開討論 大腸がん検診が真の効果を発揮するには

司会 鈴木 康元 先生

司会の言葉：

我が国における大腸がん検診は、免疫便潜血検査2日法（スクリーニング検査）と全大腸内視鏡検査（精密検査の第1選択）の組み合わせで行われている。このうち便潜血検査については大腸がん死亡率減少効果が無作為化比較対照試験で証明されており（ただし化学便潜血検査）、また全大腸内視鏡検査については大腸がんに対する極めて高い感度と特異度が報告されている。すなわち、大腸がん検診で用いられる二つの検査は最高の組み合わせなのである。しかし、大腸がん死亡数はこの60年余の間ほぼ一貫して増加し、2019年には51,420名と部位別がん死亡数が肺がん死亡数に続いて第2位となっている。この大腸がん死亡数が減らない原因としては人口の高齢化とともに大腸がん検診の精度管理の不備が指摘されているが、実際はどうなのであろうか。その原因を追究するとともに、大腸がん検診が真の効果を発揮し大腸がん死亡数が減少に転じるための術について討論したい。なお、今回は個人の発表はなく最初から討論形式で行うため、抄録には当日討論したい項目をその理由とともに記載して頂きたい。

キャノンメディカルシステムズ社共催 超音波ライブデモ (第1会場)

膵胆道領域の体位変換のポイント

講師 岡庭信司先生

司会 岩下和広技師

カイゲンファーマ社共催 胃X線症例検討会 (第1会場)

基調講演 小田丈二先生

司会 見本真一技師

教育講演1 (第2会場)

胃X線検診安全基準 第2版 完成までの道程と全国的な活用に向けて

演者 小田丈二先生

司会 小川敬子先生

要旨：

胃X線検査は本邦における胃がん検診を支える中心的なスクリーニング手段として貢献し、現在に至ります。近年は二重造影主体の新・撮影法が導入され、日本消化器がん検診学会から新・胃X線撮影法ガイドラインが、NPO法人日本消化器がん検診精度管理評価機構からは基準撮影法が提唱され、共に全国的な統一化・基準化を図り、精度管理を容易にした点から全国的に標準化された撮影法として普及しています。この撮影法の最大の目的は効率よく胃がんを発見し、胃がんによる死亡を減少させることにあり、胃壁に十分にバリウムを付着させるために撮影台の上で素早く回転したり、逆傾斜で撮影を行ったりする必要があるため、受診者の負担は比較的大きく、無理に検査を行えば事故に繋がる可能性もあります。従来より指摘されていた危険性や事故に対し、予防や回避する方法は無かろうかというところから、このような安全基準作りに着手し、2013年に第1版を作成するに至りました。胃がん検診の現場で活用いただき、とても有用であるという声を多数頂きましたが、その一方でこういった場合はどうすれば？などのご質問もいただき、改訂版の必要性を感じ、第2版作成に至りました。世界的な流行をみせた新型コロナウイルス感染症の影響などもありましたが、漸く完成に至りました。この場をお借りして、作成までの経緯や活用法に関してご報告させて頂ければ幸甚に存じます。

教育講演2 (第2会場)

(仮) 超音波判定マニュアル2021の改訂ポイント

演者 小川 眞 広 先生

司会 岡庭 信 司 先生

第13回 ザ・ベスト・イメージングコンテスト (第2会場)

司会 中村 稔 技師

山本 美穂 技師

一般演題 (第2会場)

座長 北沢 尚子 先生

山口 和也 先生

スポンサードイベント

- ・ランチョンセミナー オリンパスマーケティング株式会社
- ・スポンサードセミナー1 富士フイルムメディカル株式会社
- ・スポンサードセミナー2 伏見製薬株式会社

KAIGEN

処方箋医薬品 X線造影剤〈硫酸バリウム製剤〉

〈パウダー製剤〉

硫酸バリウム散 99.1%「共成」	バリブライトCL
バリトトップHD	バリブライトP
バリトトップP	バリコンクMX
バリブライトLV	ネオバルギンEHD

薬価基準収載

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、電子添文をご参照ください。

※注意 一 医師等の処方箋により使用すること

〔資料請求先〕 **カイゲンファーマ株式会社**
 大阪市中央区道修町二丁目5番14号
<https://kaigen-pharma.co.jp>

ザ・ベスト・イメージング・コンテスト症例募集 (The Best Imaging Contest)

第81回日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会において「第13回ザ・ベスト・イメージング・コンテスト」を開催いたします。

2008年より地方会において毎年開催されてきましたコンテストは、新型コロナウイルスの感染拡大により会場に集まって投票することは難しく中断しておりましたが、今年度は中島寛隆大会長はじめ実行委員の皆様の努力により開催できることとなりました。

例年通り応募いただいた症例を皆様の投票でベストイメージング症例を決めますが、Web開催ですので地方会当日のみの投票ではなく1週間前から応募画像を大会ホームページ上に公開し、地方会参加登録者が公開直後より事前に投票を行い、当日投票の結果と合わせて大会当日ベスト画像を決定したいと思います。

記録された超音波写真には病態を正しく的確に伝えたいという検査担当者の思いが込められています。日常業務で撮影された思いのこもった自慢のベストショットを応募してください。応募していただいた超音波画像を、応募者・所属施設を伏せて大会ホームページ上で閲覧し、地方会参加者の投票でベストイメージングを選出します。

応募資格は医師・技師を問いません。また応募者のプレゼンテーションはありませんので、地方会に参加できない方でも応募して頂いて結構です。

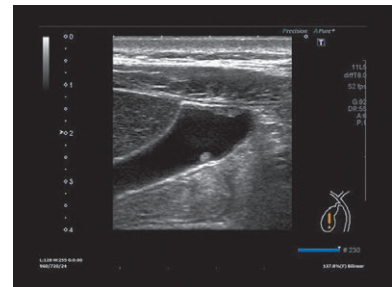
特に、健診施設で発見し撮影された汎用機での症例もお待ちしています。装置の調整が的確で疾患の特徴がうまくとらえられた画像ならば稀症例でなくても構いません。多数のご応募お待ちしております。

【超音波画像】

- ・ Bモード画像 1枚 (カラードプラ・パワードプラ可)、ただし2分割の使用は可能とします。
- ・ 施設名、患者氏名は削除し、フォーカス、ゲイン、ダイナミックレンジ等の装置条件は削除しないでください。
- ・ 超音波画像に文字、記号等はいれないでください。

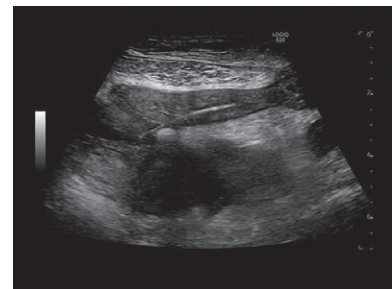
第12回 (2019年) 優秀作品

最優秀賞



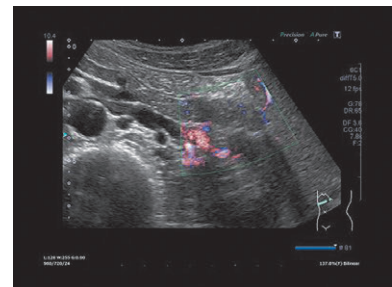
片山 和弥
(医療法人社団 せいおう会 鷺谷健診センター)

優秀賞



武井 章矩
(日本大学病院 消化器内科)

特別賞



松本 知子
(医療法人社団 せいおう会 鷺谷健診センター)

【領域】

上腹部（肝臓、胆道、膵臓、脾臓、腎臓、消化管、腹部大動脈、その他）

【応募方法】

E-mailにて件名を『ベストイメージング（応募者名）』とし、本文に氏名・連絡先住所を明記の上、下記要領に従いPowerPointにて作成したスライドファイルを添付して送信してください。

〈スライド1枚目〉氏名（術者）、所属施設名、超音波機種名、使用プローブ周波数、
患者（検診者）の年代・性別、診断名、
コメント（術者の一言）：強調したい点、工夫した点など

〈スライド2枚目〉超音波画像

【応募先】

井上胃腸内科クリニック 担当：中村 稔

E-mail：us.bestimaging@gmail.com



【締め切り】

令和4年8月15日（必着）*応募は一人1点のみとさせていただきます。

前処置から画像診断支援まで

人々のすこやかな毎日を願い、より適確でより安心な診断ができる信頼ある製品づくりを。

薬価基準収載

処方箋医薬品 注意-医師等の処方箋により使用すること

【硫酸バリウム製剤】

■ 大腸CT用経口造影剤

コロンフォート® 内用懸濁液25%

■ 上部消化管X線造影剤

バリテスター® A240散

硫酸バリウム散99.5%「FSK」

【炭酸水素ナトリウム・酒石酸配合剤】

■ X線診断二重造影用発泡剤

バリエース® 発泡顆粒

■ 胃内有泡性粘液除去剤

ジメチコン内用液2%「FSK」

(ジメチコン内用液)

■ 緩下剤

ピコスルファートナトリウム錠2.5mg「FSK」

(ピコスルファートナトリウム錠)

■ 消化管X線造影剤

バリオゲン® HD

バリオゲン® デラックス

■ 注腸用X線造影剤

エネマスター® 注腸散

取扱商品

■ 大腸・CT用検査食 **FG-two**☆

味とボリュームにこだわった、簡単調理の検査食。

■ 清涼飲料水 **PROJECT F.**

難消化性デキストリン(食物繊維として)入り。

■ 医療用潤滑剤 **FG Jelly**

消臭成分と抗菌成分をダブル配合。
刺激性の少ない透明タイプの水溶性潤滑ゼリー。

■ CT検査補助具 **コロンマット**

マットの上でコロンと回転し、体位変換が可能。
撮影時の体位維持や、体位変換の負担を軽減。

遠隔画像診断支援サービス

G.I.Lab株式会社

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-1
KIMURA BUILDING 7F TEL : 03-5283-0981

検診に特化。
胃X線を始め、胸部X線、マンモグラフィ、CT・MRI、大腸CTなど、多様な画像をお取り扱いします。

※ 効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等詳細は、添付文書をご参照下さい。

FSK 伏見製薬株式会社
http://www.fushimi.co.jp

仙台営業所 / TEL 022-295-5667
名古屋営業所 / TEL 052-732-8555
中四国営業所 / TEL 0877-22-7284

東京営業所 / TEL 03-5328-7801
大阪営業所 / TEL 06-6160-2431
福岡営業所 / TEL 092-413-4107



学会参加で付与される
各種資格更新単位につ
いてはこちら



消化器がん検診の 再出発



国会議事堂



日本橋



豊岸橋から臨む日本橋茅場町

第81回 日本消化器がん検診学会 関東甲信越支部地方会

会期 2022年9月4日(日)

大会長 中島 寛隆 早期胃癌検診協会附属茅場町クリニック所長

主催 日本消化器がん検診学会
関東甲信越支部

開催方式 完全WEB開催



東京タワー

運営事務局
〒112-0005 東京都文京区水道 2-1-1
株動草書房 コミュニケーション事業部 内
Tel: 03-3814-7112 Fax: 03-3814-6904
E-mail: jsgcs_kanto81@keiso-comm.com
HP: //jsgcs-kanto81.kenkyuukai.jp

第22回 超音波セミナー

代表世話人 飯田市立病院 岡庭信司

超音波検査でどこまでわかるのか？

講演1	『肝臓』	日本大学医学部 消化器肝臓内科	松本 直樹先生
講演2	『胆道』	飯田市立病院 消化器内科	岡庭 信司先生
講演3	『膵臓』	元国立がん研究センター中央病院 放射線診断科	水口 安則先生

開催方式

WEB開催（オンデマンド配信）

募集期間

2022年4月1日から5月31日

配信期間

2022年6月1日から6月30日

会費

会員：2,000円 非会員：3,000円

申し込み

セミナー申込は下記のURLまたはQRコードからお願いいたします

https://eventpay.jp/event_info/?shop_code=5285886995383797&EventCode=P425468709

申込用QRコード



問い合わせ先

usbukaiseminar@gmail.com

※このセミナーは、社団法人日本超音波医学会認定「超音波検査士」
資格更新指定の対象になっており、出席5単位が付与されます。

主催：日本消化器がん検診学会 関東甲信越支部 超音波研修委員会

『胃X線検診安全基準 第2版』のご案内

2013年に胃X線検診安全基準の第1版が作成され、9年が経過しました。当時は日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会として活動した最後の年でした。胃X線検査は本邦における胃がん検診を支える中心的なスクリーニング手段として貢献してきましたが、安全性に関する基準は存在せず、現場からも安全基準の必要性に関して声があがっていました。そこで作成された第1版になりますが、その後も安全基準に対する質問が寄せられ、改訂版を作成する必要性を感じ、2019年から第2版作成の準備をしていたところに2020年初頭からの新型コロナウイルス感染症の全世界規模での拡大が始まり、この企画は一時中断となりました。新型コロナウイルス感染症により、がん検診は大きなダメージを受けました。不要不急の受診や検査は控えることが当たり前となり、癌の早期発見に悪影響を及ぼしたからです。その後、感染症対策を行いながら検診が再開され、安心安全を心掛ければ問題なく検診を行うことが可能であるという事実も経験しました。いかに安全に検診を行うことが大事であるか、再認識させられました。そのため、今回、検診現場における新型コロナウイルス感染症対策の工夫を一般的な感染症対策としても対応可能なものとして安全基準に載せるべきであろうと考え、掲載いたしました。また、外国人受診者向けに説明しやすいものはないかというご要望も多く、バリウムの飲み方や胃X線撮影方法を多国籍言語で対応させた案内も付録に掲載いたしました。内視鏡検診が全国的な展開をみせてきておりますが、実践されているのは都市部に限られており、X線検診はまだまだ多くの受診者が必要としています。そのような方々に今後も安全に検診を行えるよう、この基準が少しでも役立てて頂ければ幸いです。

この『胃X線検診安全基準 第2版』は当支部のホームページからダウンロード可能です。冊子もございますが、部数が限られております。お手数ですが、各自で印刷の上ご使用頂ければと存じます。対策型検診に従事なさっている方など、冊子が必要な場合は、『胃X線検診安全基準 第1版、第2版』内にあります問い合わせ先にメールでご連絡下さい。冊子に余裕がございましたら対応させていただきますが、郵送料などはお負担をお願いすることになると思います。

最後になりますが、今後も胃X線集団検診が全国的に安心かつ安全に施行され、胃がんの早期発見につながることを切に願います。

令和4年4月吉日

胃X線検診安全基準作成委員会

委員長 東京都がん検診センター 消化器科 小田丈二

委員 小川敬子、竹林章子、浦島有希、丹羽咲弓、関 淳子、宮田和則、
増田英夫、見本真一、金子英利、植村博次、山岸史明、小笠原洋介

編集後記

今号は2022年4月より、日本消化器がん検診学会関東甲信越支部支部長に就任された小田丈二先生にまずご挨拶いただきました。新型コロナウイルス感染症がまだ継続している中ではありますが、注意しながら、これからもより良い検診を行っていこうという決意を述べていただきました。

次に第81回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会について、会長の中島寛隆先生に述べていただきました。第80回関東甲信越支部地方会に続いて、完全WEB開催となりました。今回ライブ配信に力を入れています。教育講演に加えて、従来からのシンポジウム、パネルディスカッション、ライブデモ、ベストイメージングコンテストも予定しています。新型コロナウイルス感染症対策のため三密を避ける必要があります。一つの会場に集まって討論するという形式は避けませんが、WEBを通して対面に匹敵する白熱した討論が行われることを期待しています。

超音波研修委員会も、令和4年度第22回セミナーをWEB開催で行うこととなりました。注意しながらこれまで通りの生活を目指しますので、色々な工夫をして、WEBという新しい道具を利用しながら、前へ進んでいこうと思います。

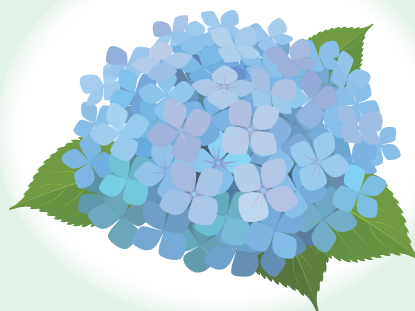
胃X線検診安全基準第2版発刊について、小田丈二先生に述べていただきました。当関東甲信越支部の前身の日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会の最後に発刊された安全基準第1版は、関東甲信越地区のみならず日本全国で参考にさせていただき、大変役に立っていたと思います。第2版も、日本中でダウンロードいただき、ご利用いただくことを期待しています。

新型コロナウイルスワクチン接種が進んでいるのですが、まだコロナウイルスが減ったとはなかなか断言できない状況です。令和3年の検診実施状況がもう少しするとまとまります。最近になり、市民の受診控えがようやく減ってきたと感じています。消化器がん検診御関係の皆様、あせらず、安全安心な検診をこころがけて下さい。

公益財団法人ちば県民保健予防財団
総合健診センター
山口 和也

■編集委員会■

編集委員長 山口 和也
編集委員 小田 丈二 岡田 義和
神宮寺広明 山本 美穂
石井 崇雄 渡邊 綾子



(非売品)